

本シリーズで紹介しているアゲハチョウのなかまで、南方系のミカドアゲハと同じ *Graphium* 属に分類される。幼虫が兵庫県の県木としてどこにでもあるクスノキの葉っぱを食べるため、高砂市松波町周辺にもごく普通に飛び交うチョウだ。母チョウは大きなクスノキよりも小ぶりの木を好んで産卵し、松波町では F さんが玄関前に鉢植えとしておられるクスノキがたいそうお気に入り、いつのまにか幼虫がついていて知らないうちにきれいなチョウに育って飛び立っている。アゲハのなかでは最も飛ぶスピードが早く、飛んでいるときには翅表のブルーがちらつくことで見分けられるが、いろんな花の蜜や路面の湿り気を吸う際に、小刻みに羽をふるわせながら一定時間とどまってくれるので、そういうときにじっくり観察できる。翅表にはみごとな青色の斑紋が縦に並び、後翅の裏にはきれいな赤い紋が見えるが、この青色はチョウが蛹から羽化して太陽光線をうけて初めて美しく発色する。沖縄や八重山諸島にもたくさん飛んでいるチョウで、南国で発生する個体はブルーが濃く鮮やかでその美しさはみごとである（参考：沖縄本島八重岳産）。



61106 八重岳 アオスジアゲハ

本種は前翅青帯に青紋が余分に出る変異体が知られていて、高砂市での筆者の記録はエサキ型が 8 回（西畑：May 6, 1980, Apr. 20, 2007, 荒井町新浜：飼育羽化 Apr. 17 and 24, 2012, 松波：May 14, 2010, May 7, 2011, Mar. 30 and Apr. 4, 2016）、ハンキウ型が 4 回（西畑：May 1, 2004, 荒井町新浜：飼育羽化 Apr. 17 and 20, 2012, Apr. 4, 2016）で、2011-12 年にかけての飼育で、高砂市荒井町新浜地区に変異遺伝子をもつ 2 群がいることを確認できている。2004 年 5 月のハンキウ型は西畑テニスコートそばのウバメガシ葉上で交尾中の個体を見つけたものだが、持ち帰った後産卵はしてくれなかった。2011 年 5 月に松波町自宅庭のマーガレットにきたエサキ型や 2016 年 4 月に越冬蛹から羽化したエサキ・ハンキウ双方の変異紋をもつ珍しい複合個体などは、若令幼虫の採集地である荒井町新浜地区が発生地域だと推定できる

May 6, 1980 高砂市西畑
アオスジアゲハ♀ エサキ型May 1, 2004 高砂市西畑
アオスジアゲハ♀ ハンキウ型

が、今後ともこれら変異個体の出現について関心をもち、継続観察していきたいと思っている。

Apr. 4, 2016 エサキ型が続けて羽化

朝、アオスジアゲハが羽化しているのに気づいたが、なんときれいなエサキ型。まだ翅が固まっていないようなので急ぎ撮影記録を撮る。次いで、4月1-2日と旅行に出かけている間に羽化していた個体を、太陽光でしっかり美しいブルーになるように吹き流しに入れてつるした際、中室の紋が少し小さいがこれもエサキ型であることに気づく。近隣にエサキ型とハンキュウ型の遺伝子をもつタイプが生息していることは分かっている、これまでも記録があるが、その密度までははっきりつかめていない。アオスジアゲハは夏の「青少年のための科学の祭典」のチョウアルバム作成用に飼育をしていて、アオスジアゲハの自然発生に影響を与えることが少ない（自然界だと卵から成虫になるのは寄生バエなどの天敵攻撃のせいで5%程度だとされるが、飼育ではほぼ100%成虫にまで育てられる）標本確保の方法だと慰めているのだが、この珍しいタイプは自然界へと戻してやるつもり。



Apr. 6, 2016 エサキ・ハンキュウ複合型

2016年4月4日に羽化したアオスジアゲハが吹き流し内で翅を全開させた状態で休息している



るのをみて、前翅第2紋のすぐ横に小さな紋があるのに気づき、これはエサキ型とハンキュウ型の複合型という珍しい変異であることを知る。吹き流し内では容易に翅を広げた状態でおとなしくしてくれないため、部屋内へと出して窓際のカーテン上で、ようやく半開翅状態の記録をとる。あらためて羽化後の記録をよく見れば、確かに裏面からも第2紋が2個あるのが分かる。高砂市でのエサキ、ハンキュウの複合型はこれが初めての記録となる。